

※省略されている部分(助詞、助動詞など)は補う。

その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

問、a)とb)のどちらがいい？

a )

その子 (は) ——二十 (だ) (。) ／初句切れ

櫛に——ながるる——黒髪の——おごりの——春の——うつくしきかな

b )

その子 (は) ——二十 (だ) (。) ／初句切れ

櫛に——ながるる——黒髪の  
おごりの ——————> 春の——うつくしきかな

c )

その子 (の) ——————  
二十 (の) ——————  
櫛に——ながるる——黒髪の ——————> おごりの——春の——うつくしきかな

たはむれに母を背負ひて  
そのあまり軽きに泣きて  
三歩あゆまず

a )

たはむれに  
母を ——————> 背負ひて ——————  
その ——————> あまり ——————> 軽きに ——————> 泣きて ——————> 三歩 ——————> あゆまず

b ) ……三行詩だからあり得ない。

たはむれに ——————  
母を ——————> 背負ひて ——————  
その ——————> あまり ——————> 軽きに ——————> 泣きて ——————> 三歩 ——————> あゆまず

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染ますただよふ

問、なにが「かなし」なのか？

a )

白鳥は—かなしからずや (。) (二句切れ)

(白鳥は) ——————  
空の—青 (や) ——————  
海の—あをにも————— 染ます—ただよふ

b )

白鳥は—かなしからずや (。) (二句切れ)

空の—青 (が) ——————  
海の—あをにも————— 染ます—ただよふ

ひたぶるに我を見たまふみ顔より涎を垂らし給ふ尊さ

問、どちらがいい？

a )

(父が) ——————  
ひたぶるに—————  
我を————— 見たまふ—み顔より—————  
涎を————— 垂らし給ふ—尊さ

b )

(父が) ——————  
ひたぶるに—————  
我を————— 見たまふ (。) (二句切れ) ——————  
(父の) み顔より————— 垂らし給ふ————— 尊さ  
《信頼しきっている》  
《病気と闘っている》

この心葬り果てんと秀の光る錐を畠に刺しにけるかも

問、a)とは別の解釈をしてみよう。

a )

(私が) —————  
 この心 (を) ————— 葬り果てんと (思って) —————  
 秀の光る ————— 錐を —————  
 畠に ————— 刺しにけるかも

b )

この心 (が) —————  
 ( ? を) 葬り果てんと (思って) —————  
 秀の光る ————— 錐を —————  
 畠に ————— 刺しにけるかも

君かへす朝の舗石さくさくと雪よ林檎の香のごとくふれ

問、文節木を書いてみよう。

a )

(私が) —————  
 君 (を) ————— かへす ————— 朝の ————— 舗石 (が) ————— さくさくと (音がする) (。) (三句切れ)  
 雪よ —————  
 林檎の ————— 香のごとく ————— ふれ

b )

君 (が) ————— かへす  
 朝の ————— 舗石 (を) (。) (二句切れ)

さくさくと —————  
 雪よ —————  
 林檎の ————— 香のごとく ————— ふれ